

令和5年度 第3回学校運営協議会議事録

1 日 時 令和5年11月7日（火） 9：45～11：45

2 場 所 本校 会議室

3 出席者

学校運営協議会委員（10名）

志學館大学教授 鹿児島国際大学准教授 鹿児島市立中学校長
鹿児島市福祉館長 鹿商同窓会長 民間企業経営者3名
鹿商PTA会長 鹿商PTA副会長（母親の会代表）

学校関係者（10名）

校長 教頭2名 事務長 教務主任 生徒指導主任
進路指導主任 保健主任 商業科主任 教務部（記録係）

4 会 順

- | | |
|------------------|-----------------|
| (1) 学校長あいさつ | 9：45～ 9：50 |
| (2) 授業参観 | 9：55～10：45（2限目） |
| (3) 学校の概況説明 | 10：55～11：10 |
| ① 教務部 | |
| ② 生徒指導部 | |
| ③ 進路指導部 | |
| ④ 保健部 | |
| ⑤ 商業科 | |
| ⑥ 学校評価について（中間評価） | |
| (4) 質疑応答、提言等 | 11：10～11：40 |
| (5) その他 | 11：40～11：45 |
| (6) 閉会のことば | |

○質疑応答・感想・提言等

・授業を参観して、生徒がまじめに楽しそうな様子で良かった。

・PTA会長4年目だが、最初の2年はコロナで何もできなかった。今年は、PTAの全国大会・九州大会に参加でき、また、市のPTA活動にも多数参加した。

・来年度から女子生徒が入学してくることを踏まえ、防犯カメラの設置を市に要望し、許可が下りた。

・男子校の良さをかみしめながら、行事を行っている。男子校最後の記念にPTAとして何かできないかを思案中である。

・前回の提言を受けて、インスタグラムもすぐに始まった。多くの人に見てもらえていると思う。メディアを含めて来年度から鹿商が変わるのは伝わっているが、今後はより具体的な内容を発信するといいいのではないか。

・授業を参観して、自分たちのころは緊張感があったが、今はアットホームな雰囲気、それもいいと思う。いろいろ変わる中で、これまで築いてきた鹿商の価値を大事にし、それを生かしながら、さらに新しい価値を生み出してほしい。

・過去の伝統を振りかえることのできる資料室を整備してほしい。

・久しぶりに体育祭を見て、生徒が少なくなったなど思う。

・学校も企業も魅力がないと衰退していくのは同じである。時代や環境の変化に適合しながら成長していかなければならない。

・まだ先だと思っていた、学科再編や男女共学化のスピード感はさすが鹿商だと感じた。どんどん鹿商をPRしていきたい。

・11月4日（土）の鹿商同窓会総会では、1000名近くの前同窓生が集まった。同窓生の絆と伝統を感じた。

・学科再編や共学化などスピード感のある変革を感じる。

・校歌を替えてもいいのではと思っていたが、よく歌詞を読んでもこれからの鹿商にもふさわしい校歌だと感じた。

・1日体験入学とオープンキャンパスの違いは何か。

→ 内容はほぼ同様であるが、1日体験入学は中学校3年生のみを対象としている。中学1年～3年の生徒及び保護者、地域の方々に当日参加も可という形で、より気軽に鹿商を見てもらえるのがオープンキャンパスである。

・校舎のいたるところが古く感じる。女子生徒も入学してくるので、もっときれいな状態で来年度を迎えさせたい。

・鹿商は卒業してからも先輩、後輩の繋がりがすごいと思う。

・鹿商生と言えば剛健なイメージが強かったが、体育祭では、鹿商生の新たな面を見ることができてよかった。

・国体に出た生徒の進路はどうなってるのか。

→ 部活動推薦で大学進学、もしくは公務員を希望している。

・マイクを使ったチームティーチングの授業では、生徒が真剣にPC画面を見ていてよかった。

・同窓会、PTA等、鹿商を応援してくれる人が多くてとてもうらやましい。

・学校説明会に2回来校していただいた。中学生も大変関心をもっており、真剣に話を聞いていた。

・地理の授業参観で、生徒と教師の双方向なやり取りが大変よいと思った。

- ・鹿児島の子は人前で自分の意見を言いたがらないイメージがある。自分の意見をきちんと言える人間を教育していくことがこれからの課題である。
 - ・最近の学生は体が弱くなってきているように感じる。休むこと、欠席に対するハードルも低くなってきている。
 - ・来年度から女子生徒が入学してくるが、生徒それぞれの特性に応じた指導体制の充実を図る必要がある。
-
- ・高1ギャップが全国的に増えている。心が育ちにくい、育てにくい時代と言われている。
 - ・授業を参観して2年生、3年生と学年が上がるごとに表情が高校生らしくなっている。
 - ・生徒の内面を育てるためには、「チーム学校」として関係機関と連携を図っていくことが今後は重要になってくる。